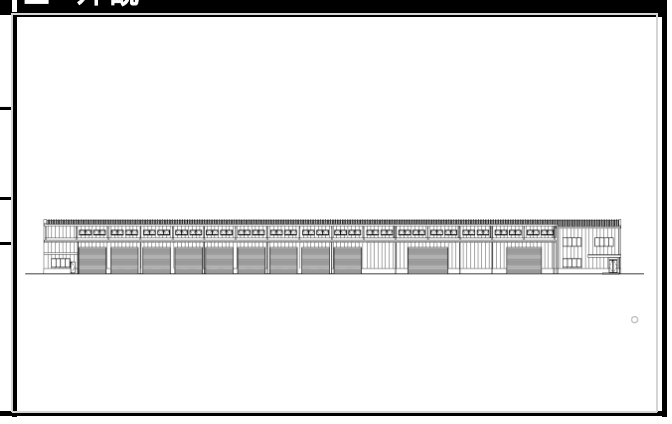
CASBEE熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	ヤマエ久野㈱熊本物流センター新築	階数	地上3F
建設地	熊本市東区戸島町832番1外48筆お	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	6,300 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年12月25日
敷地面積	128,095 ㎡	作成者	オクムラ構造設計(有)
建築面積	6,450 ㎡	確認日	2018年12月26日
延床面積	6,752 ㎡	確認者	オクムラ構造設計(有)

■ 外観



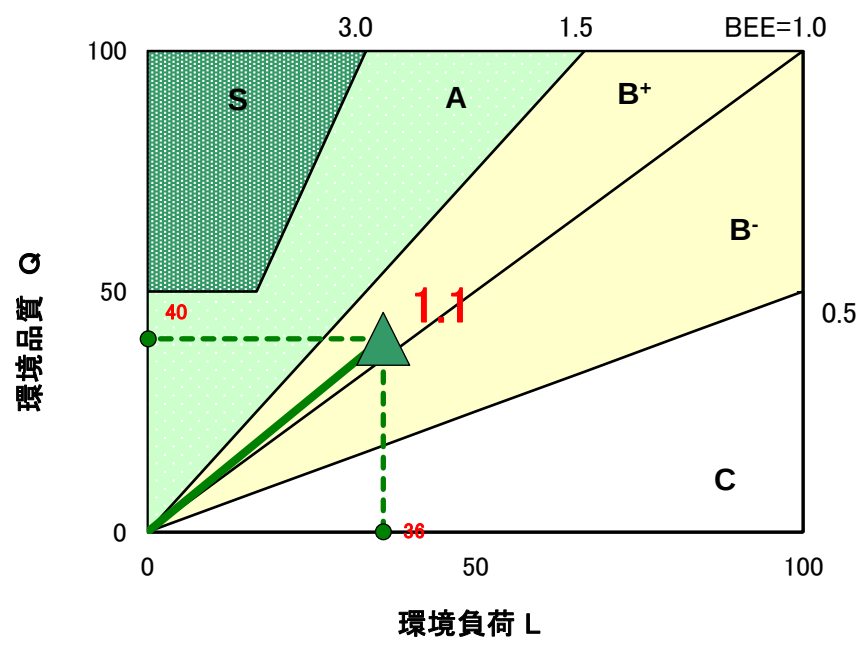
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★☆☆

BEE = 1.1

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率
69%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
80

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	100.0
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	62.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	70.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	69.7

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

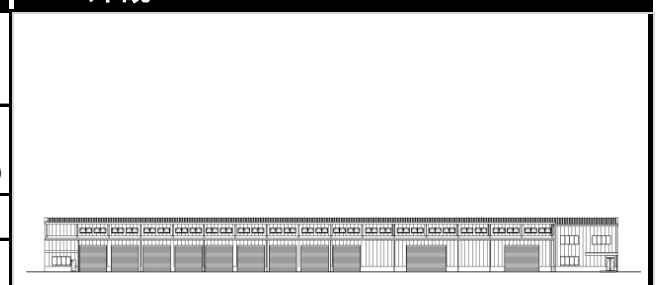
CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要

建物名称	ヤマエ久野㈱熊本物流センター新築	階数	地上3F
建設地	熊本市東区戸島町832番1外48筆お	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、指定なし	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,300 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年12月25日
敷地面積	128,095 ㎡	作成者	オクムラ構造設計(有)
建築面積	6,450 ㎡	確認日	2018年12月26日
延床面積	6,752 ㎡	確認者	オクムラ構造設計(有)

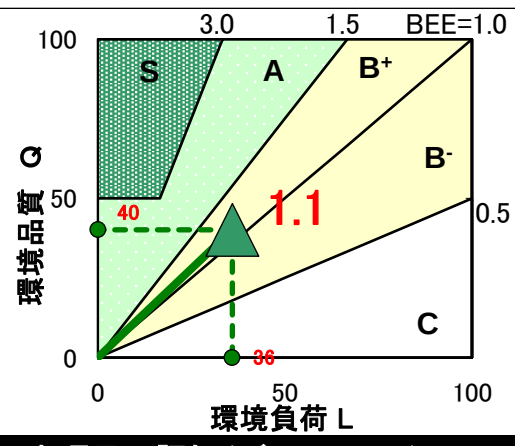
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.1 ★★★☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★

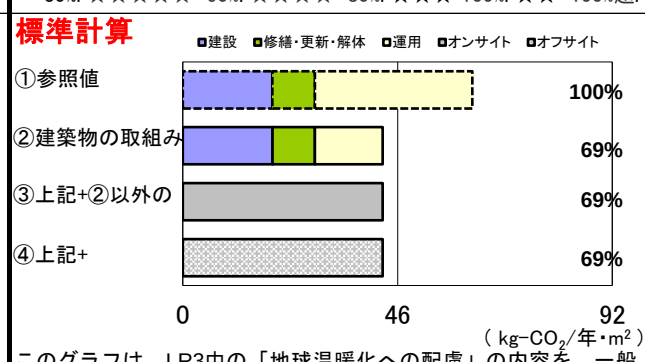


2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆☆

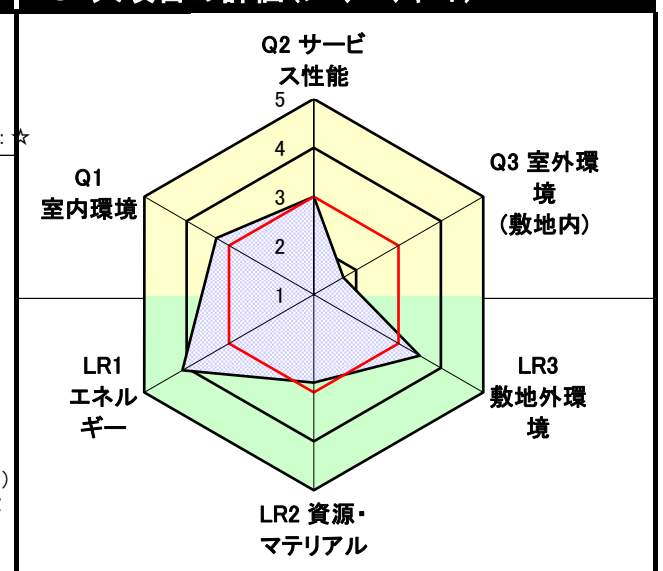
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

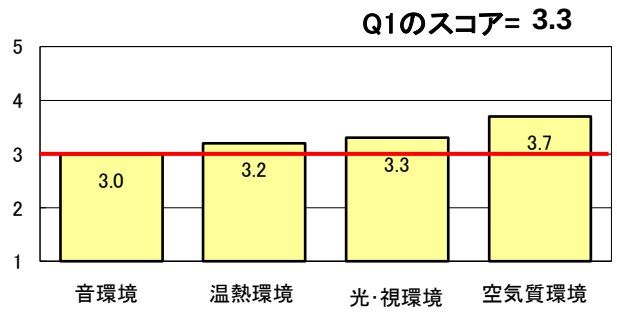
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



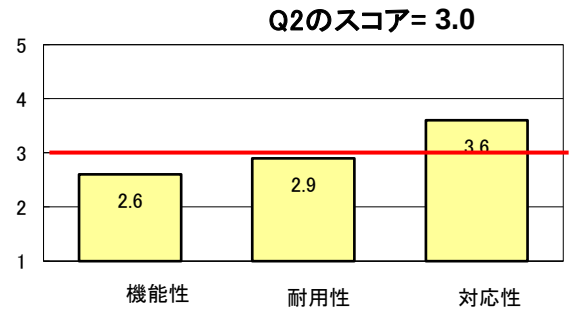
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 — Q のスコア= 2.6

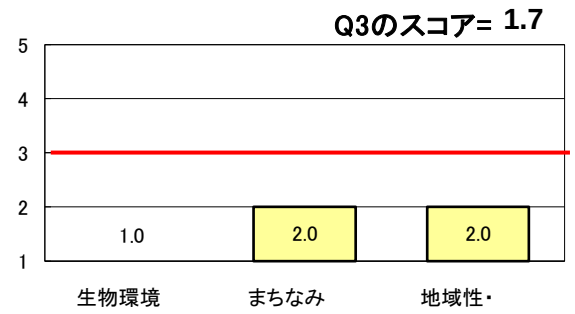
Q1 室内環境 — Q1のスコア= 3.3



Q2 サービス性能 — Q2のスコア= 3.0

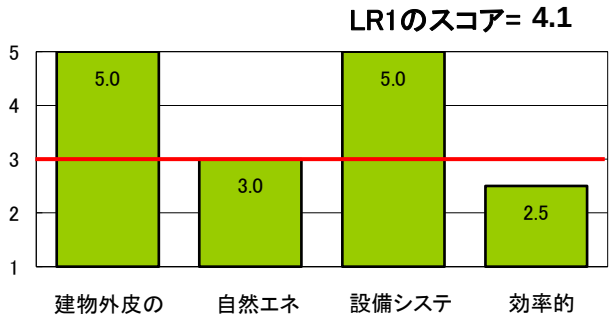


Q3 室外環境(敷地内) — Q3のスコア= 1.7

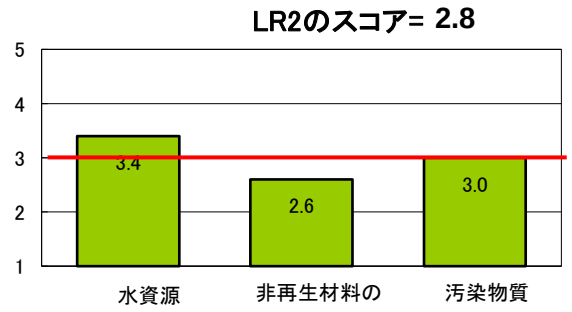


LR 環境負荷低減性 — LR のスコア= 3.5

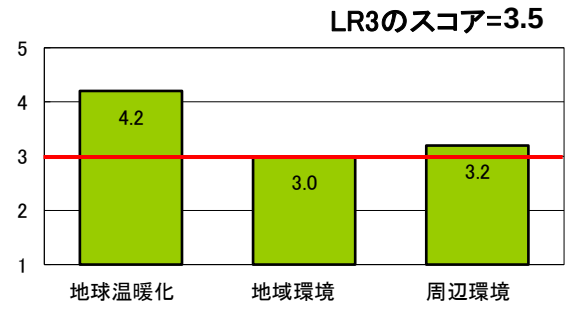
LR1 エネルギー — LR1のスコア= 4.1



LR2 資源・マテリアル — LR2のスコア= 2.8



LR3 敷地外環境 — LR3のスコア=3.5



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 80

重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 =100.0

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =62.5

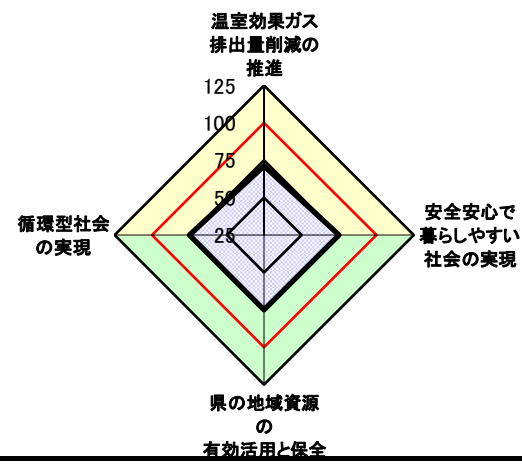
重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 70.0

重点事項4:循環型社会の実現

評価点 =69.7

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
ヤマエ久野㈱熊本物流センター新築工事(北棟)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						**2.6**
Q1 室内環境			**0.31**		**-**	**3.3**
1 音環境		**3.0**	0.15	-	-	**3.0**
1.1 室内騒音レベル		**3.0**	0.40	-	-	
1.2 遮音		**4.2**	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	遮音性能T-2	5.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		**1.0**	0.20	-	-	
2 温熱環境		**3.2**	0.35	-	-	**3.2**
2.1 室温制御		**3.5**	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能	窓SC=0.45、U=2.6、U=1.387	5.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		**3.0**	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		**3.3**	0.25	-	-	**3.3**
3.1 昼光利用		**4.2**	0.30	-	-	
1 昼光率	昼光率3.28%	5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		**3.0**	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		**3.0**	0.15	-	-	
3.4 照明制御		**3.0**	0.25	-	-	
4 空気質環境		**3.7**	0.25	-	-	**3.7**
4.1 発生源対策		**4.0**	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	使用建材は全てF☆☆☆☆	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		**3.0**	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		**4.0**	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙室設置	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		–	**0.30**	**-**	**-**	**3.0**
1 機能性		**2.6**	0.40	-	-	**2.6**
1.1 機能性・使いやすさ		**1.6**	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		**3.6**	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.7m、窓設置	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースが執務スペースの96.5%	4.0	0.33	-	-	
3 内装計画		3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		**3.0**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		**2.9**	0.30	-	-	**2.9**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**3.0**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**2.7**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**3.0**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	衛生器具に節水型器具、グリーン購入品を採用	4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	事務所階高4.0m、工場階高9.38m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	事務所壁長さ比0.22、工場壁長さ比0.06	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.39	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.5
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm＝0.7	5.0	0.01	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.43	5.0	0.62	-	-	5.0
4 効率的運用			2.5	0.25	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓+節水型便器+擬音装置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		OAフロアー	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・躯体と仕上材が容易に分別可能（軽鉄下地） ・再利用できるユニット部材（OAフロアー）	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		省エネ型機器の採用	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	・敷地内に駐車場確保 ・出入口を前面道路に2か所設置	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインチェックリストの項目の過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE®熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

・周辺の景観に配慮した建物のデザインや配置計画に努めた。また省エネ性能を高め快適な執務空間づくりに配慮した。

Q1 室内環境

・開口部には遮音性能の高い建具を採用した。
・内装仕上げの部分については、全てシックハウス規制の対象外の建築材料とした。
・室内の空気質環境の向上のために、外気取入れ口は排気口と異なる方位に計画した。

Q2 サービス性能

・耐用年数の長い設備配管の採用により、建物の長寿命化を図る。
・天井高さを十分にとることで室内の快適性を高め、空間形状の自由度を高めた。

Q3 室外環境（敷地内）

・建物の形状や色彩について周辺環境に配慮した計画とした。

LR1 エネルギー

・室内の断熱性能を高め、建物の省エネルギー化を図る。
・LED照明器具の採用により、エネルギーの削減を図る。

LR2 資源・マテリアル

・解体後のリサイクルを考慮し、躯体と仕上材が容易に分別できるようにした。
・節水型の衛生器具を採用し、節水に努めた。

LR3 敷地外環境

・敷地内に適切な量の駐車場を確保

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	ヤマエ久野㈱熊本物流センター新築工事（北棟）

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)　■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	80
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				100	0.40	40.00
Q1-2.1.2	外皮性能	5.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				69.7	0.20	13.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 ＝ （各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点 ＝ （各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数